

十勝地区国際理解教育研究会

# 事務局だより NO. 2

発行者 十勝地区国際理解教育研究会事務局 発行日 平成19年10月22日

連絡先 事務局長：山川修（上士幌町立上音更小学校：上士幌町字上音更東1線274 TEL01564-2-3840）

## 研究大会だより

今年の研究大会が、10月10日（水）に芽室小中学校を会場に開かれました。

ここ数年「晴天率100%」を誇る研究大会、十勝地区国際理解教育研究会の30周年を記念する今年の大会も、秋晴れのさわやかな天気のもとに盛大に行われました。

## アメリカの姿～杉野先生の授業から

杉野浩利先生の「多様なすがたをもつアメリカ（中学1年・社会）」の授業では、2人のアメリカ人の先生が教室に招かれました。

生徒は、それまでの社会科の学習で、アメリカの自然や産業、文化について学んできました。日本とは経済的にも歴史的にもとても深い関わ



**大きくてびっくり！**



**「アメリカ人はみんな同じ」でないね**

りを持つアメリカについて学習した

後、「実際にアメリカの方に尋ねてみたいこと」をリストアップしてのこの日の授業となりました。

照れながらあいさつを交わし、その後いろんな質問に答えていただきます。「やっぱりそうか」「へえー、そうだったんだ」の新鮮な驚きに加え、お二人の考えが違うことに「『アメリカ人ならみんな同じ』ではないんだ」「僕たちが一人一人違うように、アメリカの人も一人一人が違う」ことに思いを馳せていました。

## 温暖化と私たちの未来～折出先生の授業から

折出雅史先生の授業は、「世界と日本の資源と産業（中学2年・社会）」。地球全体の課題となっている「温暖化」について関心を高める内容です。

世界的な会議の場だけでなく、ことあるごとに話題に上がる「地球温暖化」ですが、個々の生徒の知識には差があり、誤った認識をしている生徒も多いようです。折出先生の授業では、グループでの



いろいろな考えが出されました

意見交流を通して考えを修正し、温暖化の防止対策まで話し合いをしました。また、温暖化についてコンパクトにまとめられたDVDで学習をし、あらためて自分たちの意見を見直し各グループの意見を検証して、意見修正がされました。

生徒は、「温暖化防止には、人間一人一人の意識が高まることが必須であり、対策の方法はいくつもある。その中には私たち一人一人が実践できることも多い」ことを再確認していたようです。

## 笑顔の子どもたち～林先生の授業から

芽室小学校では、林正則先生の授業が行われました。「エモンの笑顔（小学3年・総合）」は、フィリピンのゴミ捨て場「スモーカーマウンテン」に住むエモン少年の生活から学ぶ、8時間のプログラムの中の1コマでした。

エモンくんは、小学校3年生で学校をやめ、毎日働いて家族の生活を支えています。粗末な家、不衛生な環境、十分な薬も買えずに、生まれてきた子どもたちがたくさん死んでしまう環境を目の当たりにして、芽室小学校3年生の子どもたちは「かわいそう」「エモンくんたちは不幸だ」という感想を持ちます。

しかし、紹介されるスモーカーマウンテンの子どもたちは、笑顔いっぱい。「どうしてあんなに笑顔なんだろう」と理由を考えていく中で、「人間にとって、本当の幸せってなんだろう」というところにまで考えを深める授業でした。



どうして「笑ってる」のかな？

## ベトナムでの研修と実践～村山先生の発表から



たくさんの示唆をいただきました

実践交流会では、今年1月にJICAの教師海外研修でベトナムに派遣された、村山美智代先生（瓜幕中学校）の実践報告がありました。

実際にベトナムを訪れ、当地の人の生活やJICAのODAの現場を見てこられた経験から、帰国後たくさんの授業を展開されています。その中の数例を、貴重な資料を交えて紹介して下さいました。報告の中で、「……『ベトナム』は、学習を進める中で、本時の目標を達成するための素材に過ぎない」というお話がありました。国際理解教育は単なる外国の紹介が目的的なのではなく、世界との出会いをきっかけに一人一人の児童生徒が自己を見つめ直す有効な手段であることを、改めて認識させられた発表でした。

紙面の都合で、基調報告や授業別分科会での内容を割愛させていただきました。次年度も大勢の方の参加で会を盛り上げていきたいと思っております。